

令和4年度(2022年度) 学校評価総括表【伊丹市立稲野小学校】

教育目標			人間尊重を基盤として 豊かな心と健康な体を持ち 主体性・連帯性のある子どもを育てる ーいきいき なかよく のびのびと 笑顔あふれる 稲野小学校ー					
重点目標			・わかる授業・楽しい授業の実現に向けた授業改善に取り組む。 ・主体性を育む「ねらい」の提示・理解を深める「ふりかえり」活動を工夫していく。 ・思考を深めるために、意図的にペア・グループ活動を取り入れていく。 ・「～したい」と一人ひとりが主体的に取り組むことができる授業づくりを進める。 ・「話す力」向上に向け、系統的に言語活動に取り組む。 ・課題を明確にし、目的意識を持たせることにより、「聴く力」をつけていく。 ・気持ちのよいあいさつができるように取り組む。 ・仲間づくりや相談しやすい関係づくり、関係機関との連携を図っていく。 ・計画的、継続的に体力づくりに向けた授業づくりに取り組む。 ・タブレットを中心にICTの効果的な活用を図り、わかりやすい授業をすすめる。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりをすすめる。 ・保護者、地域に対し学校の取り組みがわかるよう情報発信に努める。					
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①個々の教師の資質を向上させる。 ②子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。 ③家庭と学校をつなぐため、学校情報を積極的に発信する。	・校内研究授業を行い教師の資質向上に努める。 ・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などにより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。 ・どのように振り返るか学年・学校全体で共通理解を図る。 ・子どもの考えによりそい、子ども一人ひとりが安心してすごせる居場所作りに努める。 ・課題に対して出た子どもたちの疑問を「めあて」とし、子どもたちの主体性を伸ばしていくようにする。 ・ホームページを通して学校情報や学年からの情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」、「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的発信する。	・各学年授業を公開し、授業研究に努める。 ・パワーアップ研修を年間4回程度行う。 ・全ての教師が、年間15回以上授業を見る。 ・わからないことを自分から質問できるようにする。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」の項目で、肯定的評価が70%以上になる。 ・週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が90%以上になる。	B	・一人一授業を実施し、授業力の向上に努めた。 ・パワーアップ研修を6回行うことができた。 ・子ども一人ひとりをよく見ることで、安心できる場所づくりをしたり、学習へのつまづきを発見したり対応したりすることができた。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを先生に質問しやすい」の項目で肯定的評価が70%を少し上回っていた。 ・毎日ホームページの更新をし、日常の学校生活を伝えることができた。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が82.8%であった。	・今後更に子どもたちの力をつけるために研究課題を明確にして、継続的に取り組む必要がある。 ・引き続き、研究授業、パワーアップ研修を行っていく。 ・1年間を通した取り組みによって、子どもたちの様子をつかむことに努めたが、これからも継続して取り組む必要がある。 ・「わからない」とつぶやけることが当たり前の学びの場を大切にする。	・「授業はわかりやすく楽しい」のアンケート項目で肯定的評価をもっと上げてほしい。 ・職員の研修は、回数だけでなく、内容が伴わなくてはいけない。どのように資質を向上させたかについて知りたい。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①学習活動において、タブレット等の情報機器を適切に使い、情報を得る力や情報モラルを養う。 ②・中学年でア「聞くこと」、イ「話すこと」を中心に英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを図る素地を養う。 ・高学年でウ「読むこと」、エ「書くこと」を加え、コミュニケーションを図る基礎を養う。 ③欠席連絡やお手紙のデジタル配信	・学活や道徳、いなほの時間等を活用して、調べ学習を積極的に行う。 ・タブレットの使い方について、継続的に指導する。 ・必要に応じて講師を招き、情報モア)チャット、ゲーム、スモールトーク、クイズなどで聞く活動を重ねる。 イ)ペアやグループでの会話の場を設定したり、スピーチ活動に取り組む。 ウ)教科書の内容やALTの紹介文などの読む活動をする。 エ)アルファベットや各単元で学んだ単語、表現をワークシートで練習したりスピーチ原稿作成に取り組んだりする。 ・全校に配る手紙はデジタル配信を原則とする。	・学習用端末を含めた情報機器のよき使い手となる。 ア)日本語と外国語の音声の違いに気付いたり、基本的な表現を聞いて意味が分かるようになる。 イ)アイコンタクト、ジェスチャーなど相手により伝わるよう工夫しながら話す。 ウ)基本的な語彙や文を推測しながら読むことができる。 エ)アルファベットの大文字小文字が書ける。4線上に語彙や表現を書いたり語順を意識しながら、例文等を参考に書くことができる。 ・保護者との連絡手段としてデジタル配信が浸透する。	B	・情報機器の活用に上達が見られた。 ・使い方のルールをまもることができていないことがあった。 ・英語に慣れ親しむことができるように、ゲームやクイズなど楽しんで活動できるようにした。 ・ペアやグループ活動を有効的に活用し、コミュニケーションを図るような場を設定した。 ・全校に配る手紙や学年だよりなどを原則としてデジタル配信にした。	・その都度、情報機器の使い方について指導を行う。 ・引き続き児童が楽しんで英語に慣れ親しむことができるような活動を取り入れる。 ・引き続きデジタル配信を進める。 ・場合によっては紙媒体と併用して周知を図る。	・低学年のスキルに差があるのではない。複数で指導できるような体制作りが必要なのは。保護者にも支援を呼びかけてみてはどうか。 ・英語は楽しくゲーム感覚で聞いて学ぶのが基本であるので、引き続き楽しい活動をお願いしたい。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①豊かな心を育む道徳教育の推進 ②いじめの未然防止に努める。 ・いじめへの早期発見、早期対応を図る。 ③不登校傾向児童への早期対応を図る。 ④学年に応じた体験活動を実施する。	・実生活に合った道徳、人権教育の授業に取り組む。 ・教科書(あかつき)を中心にして、「ころははたく」などの心シリーズを十分に授業で活用する。 ・「月目標」を設定し、全児童、全職員で取り組む。 ・日記やチェックシート等を活用し、子ども一人ひとりの状況とその変化を継続して把握する。 ・子どもと一対一で懇談する時間を設定する。(随時) ・毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 ・休み時間の様子を把握する。 ・研修会を開き、職員間でいじめについての理解を深める。 ・保護者、担任、不登校対策支援員、学校カウンセラー、SSWとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 ・担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。 ・社会見学や自然体験活動、平和学習などの校外学習及び、校内行事の充実を図る。	・他に対しての「思いやり」と自分の「あきらめない気持ち」をもって学校生活を送ることが出来る。 ・児童アンケートで「自分を大切にすることや友だちを大切にすることについて学んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上になる。 ・児童アンケートで「なやみや不安があるとき、だれかに(先生や友だち・親など)に相談できる」の項目で、肯定的評価が80%以上になる。 ・早期対応に努め、不登校児童を出さないようにする。 ・各学年、事前学習や事後学習を行い、体験したことを学びにつなげる。 ・「学校行事などは楽しい。」の項目で肯定的評価が90%以上になる。	B	・学校朝礼の学校長の話や日頃の授業等をもとに思いやりの心を持つことを意識づけることができた。 ・児童アンケートで「自分を大切にすることや友だちを大切にすることについて学んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上になった。 ・児童アンケートで「なやみや不安があるとき、だれかに(先生や友だち・親など)に相談できる」の項目で、肯定的評価が80%を少し下回った。 ・不登校傾向のある児童に対しては相談室を利用し、学校と関係が保てるよう働きかけた。しかし、学校に来づらい児童もいるため、今後も働きかけが必要。 ・不登校対策委員会の設置 ・各学年、事前学習や事後学習を行い、体験したことを学びにつなげることができた。 ・「学校行事などは楽しい。」の項目で肯定的評価が90%を大きく上回っていた。	・日頃から自分や友だちを大切にすることの大切さについて伝え続ける。 ・アンケートで把握した事例については、丁寧に聞き取りを行い、「いじめ認知」の判断に迷う場合は、必ず学年や生徒指導担当に相談する。その際、そうした情報を学年で十分に共有しておく必要がある。いじめと「認知」された事実があれば、「いじめ対策委員会」を開催し、改善策等を講じる。 ・校内に相談室担当を位置づけるとともに、「不登校対策委員会」を設け、引き続き学校全体で不登校対策に取り組む。 ・引き続き、体験したことを他学年に発表するなどの活動を行い、学びの輪を広げていきたい。 ・児童が主体となるような行事設定の工夫を行っていきたい。	・「友達を大切にすること」など、ことばの意味について、本当の意味で理解しているのか、子どもたちはどのように受け止めているのか具体的に意見をださせる機会を持つのも良いと思う。 ・先生がなかなか外で子どもたちと遊べていないのでは。 ・若い先生が相談できるところはありませんか。「先生の寺子屋」みたいなものがあると良いのでは。 ・子どもに寄り添って話を聞いてやってほしい。話しやすい雰囲気作りが大切である。 ・「いじめ」と「いじり」の違いや、それぞれの価値観の違いなどについて話し合う必要がある。 ・「子ども個人懇談」などで、子どもたち全員と話す機会を持つような取り組みも良い。
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①自らすすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。 ③全校生に食に関する興味や関心を持たせ、健康に過ごすことへの意欲を育てる。	・体育施設の割り振り方の工夫や、学習内容を系統立てた「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 ・「パワーアップタイム」を充実させる。 ・スポーツパッチの取り組みを保つ。 ・2年生の児童に対し、食に関する指導を実施する。 ・給食委員会で、全校生に食に興味を持ってもらえるような取り組みをする。	・学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設定した目標を達成させる。 ・全員すすんで外で運動するようになる。 ・食に興味を持つ子が増える。 ・給食の残食を減らす。	B	・昨年度に引き続き、複数種目の「がんばりカード」・サーキットトレーニングの資料をデータで作成することが出来た。 ・クラス遊びの設定など外遊びの推進ができた。 ・給食をおいしく食べる児童もいるが、残食が多い。 ・引き続き、「がんばりカード」の作成やクラス遊びの推進を行う。 ・低学年のころから食の指導を活用したり、センターからのポスターや放送原稿を活用したりして、食育を進めていく。	・引き続き自分で目標設定し、その都度振り返り、成長を実感させる。 ・適切な支援方法を考えて実施し、根気強く続けていく。 ・引き続き情報共有を行い、適切な対応を行っていく。

教育環境の整備・充実	特別支援教育の推進	①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・支援を必要とする子どもたちについて、集団参加・学力・身体的補助などの面から合理的配慮を含む取り組みを考えていく。 ・特別支援学級では、個に対応し、確かで豊かな発達と社会性を育てる授業の工夫を行う。 ・交流学級においては、クラスの一員としての集団への参加や意欲を育て、お互いに助け合い、共に生きていこうとする力を培っていく。 ・子どもたちのこと、保護者の願いについての理解を深めるための研修会をもつ。	・個別の指導計画を立て、それに基づいた授業や支援を行う。 ・クラスでの居場所作り、学校行事に自分なりに目標を持って参加することができ。 ・二者懇談会、三者懇談会を通し、保護者の願いを聞き取り、職員の研修会を通し、全職員での把握に努める。	A	・個別の支援計画に基づいた支援を行った。 ・交流学級児童とつなぐ役割を交流学級担任と連携して行った。 ・保護者との連絡をしっかりととり、支援方法など教職員で共有に努めた。	・引き続き個別の支援計画を作成し、保護者と協力して支援を行う。 ・引き続き子どもたち一人一人を丁寧に見ていく等、続けていってほしい。	
	教職員の資質向上	①研修等の充実	①授業力向上や児童対応など、さまざまな研修を計画的に実施する。 ・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などのより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。 ・夏季研修会の充実を図る。	・各学年授業を公開し、授業研究に努める。 ・パワーアップ研修を年間4回程度行う。 ・全ての教師が、年間15回以上授業を見る。 ・学校の現状に合わせた研修会を実施する。	A	・一人一授業を実施し、授業力の向上に努めた。 ・パワーアップ研修を6回行うことができた。 ・引き続き、研究授業、パワーアップ研修を行っていく。	・教職員による研修を充実したものにしていってほしい。(OJTの研修など)	
	学校を支える組織体制の整備	①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	①教育目標や教育活動、子どもたちの現状や課題について、保護者や地域との共通理解を深める。 ②地域と学校が目標や情報、課題意識を共有し、連携して地域の特色を生かした教育活動に取り組む。 ・学校や子どもたちの課題を見つめ、地域と連携した具体的な教育活動の計画を進める。 ・地域の力を借りながら、子どもたちを育む教育活動を展開する。(畑づくり、町探検、九九チェック等)	・地域と教職員とが意見交換できる場を1回は設定する。 ・見守り隊募集の手紙を作成し、呼びかける。 ・地域と連携した具体的な教育活動について協議し、実践する。 ・具体的な取り組みについて振り返り、課題を共有して次年度に生かしていく。	B	・地域と教職員とが意見交換できる場を設定することはできたが、それを受けての対応や対策についてまで深めることができなかった。 ・PTA執行部と連携し、見守り隊募集の手紙を配布したが、応募には至らなかった。 ・3年生の校区探検、九九検定、特別支援学級の応作り、6年生の震災の話を聞く会など、各学年から出された協力要し、課題を共有して次年度に生かしていく。	・今後も毎年、意見交換の場を設定する。 ・時間を合わせるのが難しいが、地域の方と各学年との打ち合わせや反省会の時間を少しでもとれるようにしていきたい。 ・今後も学校の課題について意見交換をするともに、頼れるところはお願ひし、学校と地域が連携して子どもたちの育成にあたるような体制作りを進めていく。	・他校での取り組みも参考にしながら、より充実した取り組みをしていきたい。 ・話の中心はいつも子ども、子どもに光を当てれば大人も輝く。 ・保護者への協力を、もっと呼びかけていくべきではないか。 ・今後、人材確保を考えていかなければ、取り組みを継続していくことが難しい状況になるのではないかと。 ・より良いものにしていくために、取り組み後の反省会をぜひ設定してほしい。
	安全・安心な教育環境の充実	①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもへの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①組織として対応できるように、また個々の教師の資質を向上させる。 ②教師が、火災・防犯・地震の基本的な知識を知る。 ③毎月、登校指導を行い、共通理解する内容を出し合う。学級毎に指導する。 ④毎月、安全点検を行い、児童が安全に学校生活が送れるように環境を整備する。 ⑤職員の意見をもとに、働きやすい環境作りを行う。	・夏季休業中に不審者対応研修を設定し、教師の動き、急行班の動き、学び、学校全体の連絡体制の確認をする。 ・防犯訓練の事前指導を行う。 ・担当が作成した資料をもとに、火災・防犯・地震の避難訓練の前と後に学級指導を行う。 ・毎月、登校指導を行い、通学路の交通状況と児童の登校実態を教師が把握する。必要に応じて、危険箇所や安全な登下校の仕方を学級指導する。 ・安全点検で不備を把握し、管理職に修繕依頼し、速やかに対処する。 ・定時退勤日やノー会議デーを設定する。 ・業務改善委員会を設置し、適宜会議をもつ。	・児童は、校内に不審者が侵入した際に、安全な避難行動をとることができる。 ・教師は、緊急時における児童の安全確保と状況に応じた対応をとることができる。 ・児童が自らの生命や身体を守るために必要な知識と態度を身につける。 ・放送をよく聞き、指示に従って落ち着いて避難するとともに、避難経路を知る。 ・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90%以上になる。 ・通学路の危険箇所を知り、安全に登下校できるようになる。 ・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90%以上になる。 ・定時退勤日やノー会議デーを周知、実施する。 ・職員からの意見をもとに、改善策を考え、実施する。	B	・不審者避難訓練を実施し、安全な避難行動をとることができた。 ・教職員は不審者対応訓練を実施し、児童の安全を確保するための行動を考え、対応した。 ・資料を有効活用して事前指導を行った。 ・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90%以上だった。 ・毎月登校指導を行った。 ・通ルールやマナーを守れていないこともあり、その都度学級指導をした。 ・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90%以上だった。 ・定時退勤日やノー会議デーを設定しているが、なかなか時間内に業務を終了できていない。 ・職員の意見をもとに、働きやすい職場環境づくりを推進した。	・引き続き有事に備えて訓練を行う。 ・引き続き資料を活用しながら、児童にわかりやすく安全指導を行う。 ・普段から放送が始まったら静かに聞くことを機会があるごとに、指導して身につけさせる。 ・来年度は全職員で登校指導を行い、多くの目で子どもたちの交通ルールやマナーの現状を把握し、適切な指導をしていく。 ・引き続き安全点検を行い、学習の場として安全であることに努める。 ・道具においては複数で点検する。 ・仕事の効率化を図る。 ・学校全体で働きやすい職場づくりを進めていく。

学校関係者評価総括
次年度に向けた重点的な改善点

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った